

基本政策 1 防災減災・交通基盤			
目指す姿 2 交流を支える交通基盤の強化			
幹事部局名	建設部	担当課名	建設政策課
評価者	建設部長	評価確定日	令和 7 年 7 月 31 日

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 高速道路の供用率(%)	目標			92	93	93	96	98.9%	3	
		実績	90	92	92	92	92				
	出典: 県調べ	達成率			100.0%	98.9%	98.9%				
②	【施策の方向性①】 県管理道路の改築率(%)	目標			51.9	52.0	52.1	52.2	100.2%	4	
		実績	51.6	51.7	52.0	52.2	52.2				
	出典: 県調べ	達成率			100.2%	100.4%	100.2%				
③	【施策の方向性②】 洋上風力発電における港湾の利用件数(累積)(件)	目標			2	4	6	6	116.7%	4	
		実績	0	2	2	4	7				
	出典: 県調べ	達成率			100.0%	100.0%	116.7%				

定量的評価結果	計算式
3.67 (a 相当)	4 点 × 2 個 = 8 点 1 点 × 0 個 = 0 点
	3 点 × 1 個 = 3 点 0 点 × 0 個 = 0 点
	2 点 × 0 個 = 0 点
	合計 11 点 ÷ 3 個 (判明済み指標) = 3.67

【施策の方向性① 高速道路等の整備】

- ・ 高速道路整備促進大会の開催や、建設促進期成同盟会等の要望活動を通じ、日本海沿岸東北自動車道及び東北中央自動車道の事業中区間の早期完成を国に働きかけており、現道活用区間である「二ツ井白神 I C ～（仮）小繫 I C 間」の能代地区線形改良や、種梅入口交差点改良の工事、東北中央自動車道の真室川雄勝道路の工事等がおおむね順調に進捗している。また、日本海沿岸東北自動車道の二ツ井今泉道路や、遊佐象潟道路、東北中央自動車道の横堀道路について、3 区間が令和 7 年度に開通予定となっている。
- ・ 国道101号（浜間口バイパス）や国道107号（本荘道路）等の幹線道路のほか、県道横手大森大内線（三本柳工区）等の高速 I C へのアクセス道路の整備を推進した。また、国道398号の稲庭バイパスの一部区間において令和 6 年度に供用を開始したほか、秋田港と秋田自動車道秋田北 I C を結ぶ「秋田港アクセス道路」の改良工や橋梁工の工事を実施している。

【施策の方向性② 港湾施設の整備】

- ・ 洋上風力発電の拠点の形成に向けたふ頭用地の拡張整備（能代港10.4ha）は順調に進んでおり、令和 7 年 7 月に完成する見込みである。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
a	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.67で「a相当」であることから、総合評価は「a」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

5 主な課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 高速道路は、防災・減災、国土強靱化に資するとともに、地域経済の活性化に大きく寄与することから、早期にネットワークを完成させる必要があるが、いまだミッシングリンクや暫定2車線区間が残っている。	○ 高速道路の沿線市町村等との連携を強化し、ミッシングリンクの早期解消や暫定2車線区間の4車線化について、国や関係機関に対して要望していく。また、令和7年度は県内3区間が開通予定となっており、供用率の向上が見込まれる。
②	○ 洋上風力発電事業等の建設やメンテナンス等の需要の高まりに対応し、環日本海交流の拠点となる上で、港湾機能が不十分となっている。	○ 基地港湾に指定された秋田港及び能代港の機能を最大限に発揮し、今後事業展開される秋田沖等の洋上風力発電事業においても港湾群として対応するため、能代港の整備を進めるとともに、港湾計画改訂に基づく船川港の整備を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「a」をもって妥当とする。
